

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は上値の重い展開か

[6月15日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月8日～6月12日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.67	109.70(8)	106.58(11)	107.13	-2.46
ユーロ・ドル	1.1290	1.1422(10)	1.1241(9)	1.1307	+0.0015

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	22,305.48	-558.25	日本10年債利回り	0.010	-0.040
ダウ平均株価	25,128.17	-1982.81	米10年債利回り	0.669	-0.226

=====

<来週の主要経済統計等>

- 15日 英6月ライトムーブ住宅価格
中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高
スイス5月生産者・輸入価格
ユーロ圏4月貿易収支
カナダ4月製造業出荷
米6月NY連銀製造業景気指数
米4月対米証券投資
- 16日 豪中銀(RBA)理事会議事要旨
豪第1四半期住宅価格指数
日銀金融政策決定会合(15～16日)・金融政策発表
黒田日銀総裁会見
英5月雇用統計
独5月消費者物価指数
独6月ZEW景況感指数
米5月小売売上高
米5月鉱工業生産・設備稼働率
パウエル議長議会証言(米上院銀行委員会)
- 17日 NZ第1四半期経常収支
日本5月貿易収支
英5月消費者物価指数、英5月生産者物価指数、英5月小売物価指数
ユーロ圏5月消費者物価指数
米MBA住宅ローン申請件数
米5月住宅着工・許可件数
カナダ5月消費者物価指数
パウエル議長議会証言(米下院金融サービス委員会)
- 18日 NZ第1四半期国内総生産(GDP)
豪5月雇用統計
スイス銀行(SNB)政策金利
英中銀(BOE)政策金利
カナダ4月卸売上高
米新規失業保険申請件数、米6月フィラデルフィア連銀景況指数
米5月景気先行指数
- 19日 日本5月消費者物価指数
英5月小売売上高
独5月生産者物価指数
ユーロ圏4月経常収支

米第1四半期経常収支
カナダ4月小売売上高

【前回のレビュー】米中对立の激化、新型コロナウイルス感染拡大の第2波が警戒されればドル円には圧迫要因となりうるが、一方でリスク選好の高まりでクロス円が上昇基調を維持するようなら、ドル円は堅調な推移が続くとした。

【FOMCではゼロ金利政策の維持を決定】

6月9～10日には米連邦公開市場委員会（FOMC）では、2022年末までゼロ金利政策を維持する方針を示した。また、量的緩和策については、今後数か月は少なくとも現在のペースを継続する意向を示した。

米連邦準備制度理事会（FRB）は金利や経済見通しを発表した。それによると2020年の経済成長率見通しはマイナス6.5%、失業率は9.3%、インフレ率は+0.8%としている。2021年は、経済成長率が+5.0%、失業率が6.5%インフレ率は+1.6%となっている。

パウエル議長は記者会見で、先行きには不透明感が強く、FRBは必要に応じてあらゆる手段を講じる意向を表明した。イールドカーブ・コントロール（YCC）の導入については、景気の状態を見ながら必要性を議論するとしている。なお、市場関係者の間では、YCCは年内のどこかで導入されるとの見方も出ている。YCC導入なら米国債の利回り上昇の抑制につながる可能性が高く、ドルの重石となりやすくなる。

5日発表の5月の米雇用統計が予想外に大きく改善したことで、米国景気のV字回復が期待されていた。そうした中でパウエル議長は記者会見で労働市場の底打ちに疑問を呈しており、市場の景気回復期待に水を差した。FOMCでは予想よりハト派的な姿勢が目立ったことで、米長期金利が低下傾向にある。

米国では新型コロナウイルスの感染者数が200万人に達している。全米各地で経済活動再開に伴い、人の動きが徐々に元に戻る方向で進んでいる。米テキサス州やフロリダ州では新規の感染者数が過去最多となるなど感染拡大第2波への警戒感が広がっている。感染拡大第2波への警戒感やFRBが景気の先行きに慎重な見方を示したことから、11日の米国株はNYダウが1861ドル安となるなど大きく値を崩した。リスク回避の円買いの動きとなり、ドル円は106円台半ばまで下落して、ユーロ円、豪ドル円、ポンド円などのクロス円も軟調な動きとなった。

米国株をはじめとする株価の修正安に伴う円買いの動きが警戒される。株安の動きがさらに広がるようだと、リスク回避の円買いが続きやすくなり、ドル円は上値の重い展開となりそうだ。ドル円は下げが家族すると105円の節目を試す可能性が出てくるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、105.00～109.00円。

15～16日の日銀金融政策決定会合では企業への資金面への支援などを中心に新たな緩和策が打ち出される可能性もありそうだ。ただ、市場へのインパクトは限定的なものとなる。16日と17日のパウエル議長の議会証言では、イールドカーブ・コントロール（YCC）の導入に関する言及があれば、米長期金利を抑える要因となり、ドル円には重石となりそうだ。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、15日に米6月NY連銀製造業景気指数、米4月対米証券投資、16日に日銀金融政策決定会合（15～16日）・金融政策発表、黒田日銀総裁会見、米5月小売売上高、米5月鉱工業生産・設備稼働率、パウエル議長議会証言（米上院銀行委員会）、17日に日本5月貿易収支、米MBA住宅ローン申請件数、米5月住宅着工・許可件数、パウエル議長議会証言（米下院金融サービス委員会）、18日に米新規失業保険申請件数、米6月フィラデルフィア連銀景況指数、米5月景気先行指数、19日に日本5月消費者物価指数、米第1四半期経常収支などがある。

【ユーロドルは過熱感から上げが一服か】

ユーロドルは堅調な流れが継続した。6月のFOMCでイールドカーブ・コントロー

ル（YCC）が議論されるとの思惑から、米長期金利が低下したことなどがドル売りを誘った。ただ、ユーロドルも上昇が続いてきたことで、テクニカル面の過熱感もあり、1.14ドル台では上値を抑えられやすくなった。

4日の欧州中央銀行（ECB）理事会でのパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の6000億ユーロの増額や欧州での景気回復期待、ドルの弱さなどからユーロドルは上昇を継続してきた。5月7日の1.07台後半から1.14台前半まで大きく上昇した。過熱感の高まりから3月9日の高値1.1495近辺では上値を抑えられて、下げに転じる可能性が高いとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1100～1.1490ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、15日に英6月ライトムーブ住宅価格、中国5月鉱工業生産指数、中国5月小売売上高、スイス5月生産者・輸入価格、ユーロ圏4月貿易収支、カナダ4月製造業出荷、16日に豪中銀（RBA）理事会議事要旨、豪第1四半期住宅価格指数、英5月雇用統計、独5月消費者物価指数、独6月ZEW景況感指数、17日にNZ第1四半期経常収支、日本5月貿易収支、英5月消費者物価指数、英5月生産者物価指数、英5月小売物価指数、ユーロ圏5月消費者物価指数、カナダ5月消費者物価指数、18日にNZ第1四半期国内総生産（GDP）、豪5月雇用統計、スイス銀行（SNB）政策金利、英中銀（BOE）政策金利、カナダ4月卸売上高、19日に英5月小売売上高、独5月生産者物価指数、ユーロ圏4月经常収支、カナダ4月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。